

文化 の家

長久手町文化の家 情報誌



NAGAKUATE Cultural Center
Informational magazine

WINTER 2003
vol.16

CONTENTS

STRUCTURE / 施設点描	2
特徴的な屋根の形	
IMPRESSION	3
「オンリーワン・他にはないダンススタイル」 三代真史 / 三代真史ジャズ舞踊団	
特集	4
オペラを身近に ~ 長久手のオペラ ~	
事業報告	8
News & Topics	
自主事業のみどころ(1月~3月)ほか	10
公演Pick Up・Activities	
文化の家界限16	裏表紙



この情報誌では文化の家が行う事業や文化の家で展開されるさまざまな活動を紹介するとともに町の芸術文化情報をお知らせします。

Structure

施設点描

特徴的な屋根の形



文化の家のアトリビングの屋根は「マンサード型」といわれます。18世紀のフランスの建築家マンサールが創り出した屋根の形で、伝統的な木造屋根の基本形である切妻型と積石造のアーチ型を合成したものといわれています。切妻型よりも内部空間がふくらみ、屋根の下を2層に使うときなどにゆったりとした空間を取ることができ、外観もやさしい印象になります。また、アーチ型よりもずっと簡単に軽快な印象の屋根をつくることができます。

Impression



公演直後、インタビューに答える三代真史さん

「オンリーワン・他にはないダンススタイル」 三代真史 / 三代真史ジャズ舞踊団

11月16日、17日の2日間、森のホールで「三代真史ジャズ舞踊団」の公演を行いました。
公演の余韻が残る中、三代真史さんにお話を伺いました。

三代真史:プロフィール

名古屋を拠点とし、世界を舞台に活躍するプロダンサー、振付師。
日本の伝統舞踊、格闘技、アクロバット、ジャズダンスなど、東洋、西洋のさまざまな舞踊を融合した全く新しいダンススタイルを築き上げ、完璧な技術と芸術性でアメリカ、ヨーロッパを始め世界中から称賛を浴びている。
全日本ジャズダンスコンクールグランプリ受賞。ジャズダンスワールドコングレス世界大会国際振付コンクール優勝。名古屋市民芸術祭賞など数々受賞。

— 斬新なダンススタイルが世界中で絶賛されていますね。

ありがとうございます。多分、過去の舞踊舞台にない表現スタイル、即ち観客がみたことがない舞踊ステージを提供したからだと思います。シャープで端麗なアクロバット(エアダンス)を軸に、バレエ、モダンダンス、ジャズなどの欧米のダンステクニックを積み重ね、日本の精神「和の魂」を核に持つ作品思想が受けたのではないのでしょうか。

— この道に進んだきっかけは?

「出会い」の一言です。舞台監督の坂本久美子先生との出会いが今日の自分につづく道の始まりとなりました。言葉では言い尽くせない感謝です。

— 舞台上で表現したいこと、伝えたいことは?

ダンスは自由であり、変化しつづけています。変化することを恐れず、オンリーワンの個性的な思想表現を積極的に発表し「日本の歴史、文化、精神」を世界の人々に伝えられたらと思います。ダンスは、無言の世界です。言葉の壁がありませんから国境も越えていけます。

— 世界を舞台に活躍する中で、海外での反応や人との出会いについてお聞かせください。

おかげさまで、ここ10年間で12カ国100に近い都市で公演することができました。海外の観客の反応は「ストレート」です。“Yes” or “No”ですから。

舞踊芸術への造詣が深く、観客は「見ると観る」即ち「目と心」の両方でステージをみてくれます。最高ならば、スタンディングオベーション、拍手喝采です。

私は、この瞬間が観客と踊り手の「一期一会」だと思います。演ずる者と観る者が心に響くものを共有する出会いの時です。

— 今後の夢は?

まずは、1月からスタートするイタリア・ツアーを成功させることです。そして、ズバリ「ワールド・ツアー」です。



三代真史ジャズ舞踊団公演



オペラを身近に ~長久手のオペラ~

文化の家では、総合芸術としてのオペラを身近なものに感じてもらえるようにと、さまざまな取り組みを行っています。今回は、文化の家を拠点に繰り広げられるオペラ関係の事業を紹介します。

第2回長久手オペラ声楽コンクール 審査員と受賞者

長久手オペラ声楽コンクール

世界に羽ばたけ、長久手町から

文化の家では、オペラ歌手や声楽家を目指す新進声楽家を対象に「長久手オペラ声楽コンクール」を隔年で開催しています。未来を担う優れた声楽家が、世界に羽ばたくチャンスをつかみ、活躍することを願うとともに、長久手町の音楽文化への貢献と国際交流を目指しています。

このコンクールは、愛知県内唯一の国際的な声楽コンクールで、第2回目の本年度は、9月18日から22日までの5日間、盛大に行いました。8名の審査員のうち6名が、ドイツ、スウェーデン、イタリア、ベルギー、アメリカといった海外の優れた声楽家や指揮者です。2名の日本人の審査員も、ヨーロッパのオペラ界で長年にわたって活躍してきた一流の声楽家で構成され、日本語、ドイツ語、英語が飛び交う華やかで国際色豊かな5日間でした。

ハイレベルな声楽家たち

今回のコンクールでは、全国、海外から44名の若い声楽家の参加がありました。1次予選、2次予選、本選において、アリア3曲、歌曲2曲の計5曲が審査されました。

アリアとは、オペラの一見せ場、劇的な場面で歌われる旋律的な独唱曲で、歌い手の声の領域や声の良さが問われます。

一般的に、オペラ声楽コンクールの課題曲はアリアが中心ですが、本町のコンクールではアリアに加え歌曲も課せられ、声や表現力など歌の技術面だけでなく、知的センスなども含めて、声楽家としての可能性を総合的に見ようとするものです。

第1次予選の合格者22名が、第2次予選で10名に絞られ、最終的に1位から特別賞までの4名の受賞者と、2名の入選者が決定しました。受賞者には、表彰状、賞金などが授与され最終日の受賞者演奏会では、沖縄の松田奈緒美さん、留学先のウィーンから参加した谷口伸さんを始め、6名の受賞者が大勢の観客を前にレベルの高い歌声を披露しました。

受賞者には、1年後、受賞者記念演奏会出演

1年後の平成15年9月21日(日)には、文化の家にて第2回オペラ声楽コンクール受賞者による受賞者記念演奏会を予定しています。

本年度の受賞者の、1年後、更に成長を遂げた歌声に期待が膨らみます。

なお、2年前の第1回コンクールで、1位を獲得した吳承容(オー・スンニョン)さんは、イタリアヴァレンナ国際音楽コンクール1位、全日本ソリストコンテストグランプリ受賞、イタリア声楽コンクールシエナ賞受賞などの活躍をしています。

育成に力を入れたカウンセリング、公開レッスン

本コンクールでは、参加者一人ひとりが、1次予選、2次予選、本選が終わった直後に、審査員から直接アドバイスを受けられるカウンセリング時間を設けています。カウンセリングでは、自分の歌がどのように評価され、どこを直せば良いのかを知ることができ、発声、発音などの技術的な面から、曲の内容、背景、感情表現といった精神面にいたるまでの指導がなされました。コンクールでは、受けて終了ではなく、新しい一歩につながる育成に重きを置いた取り組みをしています。

コンクール最終日の全プログラム終了後には、コンクール参加者や一般からオーディションにより選ばれた受講者を対象に、審査員の声楽家による公開レッスンを行っています。今回は、ソプラノの中村智子さんが講師を務め、講師の素晴らしい歌声やポイントを押えたわかりやすい指導に、受講生だけでなく観客もが熱心に耳を傾け、客席ではメモをとる姿も多く見られました。また、客席からの質問にも答え、熱心な指導に拍手が沸き起こりました。



声楽公開レッスン

鑑賞者の声

- ・「レベルの高さに驚きました。」
- ・「勉強になりました。私も、声楽を勉強していますが、いつか参加したいと思います。」
- ・「地元で、これほど素晴らしいコンクールが行われていることを誇りに思います。オペラ活動を応援したいと思いました。」
- ・「コンクール5日間鑑賞券が2,000円とは安いですね。血流が良くなるような気がして、とてもすがすがしい気分です。素晴らしい歌声を聴けて嬉しいです。」

第2回長久手オペラ声楽コンクール結果

第1位	松田 奈緒美	沖縄県出身
第2位	谷口 伸	鳥取県出身
第3位	橋本 明希	富山県出身
特別賞	二宮 咲子	愛知県出身
入選	山内 恵	愛知県出身
入選	小針 絢子	福島県出身

(敬称略)

受賞者の声

1位 松田 奈緒美



まだ、未熟で若い私に可能性を見出してください、チャンスと希望を与えてくれた審査員の皆さま、温かく見守ってくださった観客の皆さま、ありがとうございます。海外の審査員からアドバイスをいただけるカウンセリングは大変勉強になりましたし、1年後に受賞者演奏会があることも、とても励みになります。大変、魅力ある企画の素晴らしいコンクールでした。これをゴールでなくスタートとして頑張りたいと思います。

2位 谷口 伸



5日間のコンクールが、とても楽しく、気持ち良く歌うことができました。これから、ウィーンに帰って活動を再開しますが、また、皆さんの前で歌えることを楽しみにしています。

3位 橋本 明希



このコンクールは、オペラ・アリアのみならず、歌曲、オラトリオなど総合的にみていただき、技術面においても、精神面においても、勉強になりました。

来年からは、ヨーロッパへ留学しますが、歌を通して観客の皆さんと心を通わせる歌を歌えるようになりたいと思います。ありがとうございました。

審査委員のお話

Volker Renicke
フォルカー・レニック (指揮者・ドイツ)



私は、オペラを通して人生そのものを伝えたいと思っています。新進声楽家の皆さんは、作曲家の意図する真実を学び、オペラファンの皆さんには、オペラを愛してオペラ界を盛り上げていただきたいと思います。

中村智子 (声楽家・日本)



非常にレベルの高いコンクールでした。声楽家の皆さんは、譜面どおりに歌う技術面だけの追求ではなく、語学や、物語について勉強してください。そして、たくさんの経験を経て、人間として成長し、心に響く歌を歌えるようになってください。

長久手町の素晴らしいホールでのオペラコンクールが、ずっと続くことを願っています。

Birgitta Nordfalk
ビルギッタ・ノルドファルク (声楽家・スウェーデン)



日本には、オペラハウスが少なく大変残念に思います。長久手町のコンクールは素晴らしいアイデアです。若い歌手たちに刺激を与えるこのコンクールが、長く、長く続くことを願っています。

Ludovic de San
ルードヴィック・ドゥ・サン (声楽家・ベルギー)



オペラは、歌の芸術の最も美しいショーウィンドウです。そこから何かを得ようという積極的な気持ちをもって、オペラを観ましょう。若い声楽家の皆さんには、個性を豊かにするために、文化的な好奇心を発展させること、芸術性を高めること、そして、いくつもの外国語を修得すること、これらのことを望みます。

Maria de Francesca-Cavazza
マリア・デ・フランチェスカ・カヴァツァ (声楽家・イタリア)



長久手町の高い文化意識を感じました。この勤勉で素晴らしい才能の若い声楽家たちは、日本と西欧の芸術の未来の希望となるでしょう。

オペラの鑑賞は、世界の文化に触れることができ、自分自身を豊かにし、日本社会の知的発展の貢献にもつながると思います

Uwe Heilmann
ウーヴェ・ハイルマン (声楽家・ドイツ)



オペラ界は、音楽と演技の総合芸術で、400年の伝統があります。このコンクールは、若い声楽家たちが、舞台上で競い合える機会を与えると同時に諸外国の文化に触れることの出来る素晴らしい取り組みだと思います。

大下久見子 (声楽家・日本)



オペラは愛を表現する劇。一度、目をつぶってオペラを聴いてみてください。声楽という人間の身体から伸びてくる声、音色とオーケストラの音色がひとつになった響きのある一点に集中して。情熱と精神統一、開放と緊張が、交互にやってくる心と耳への波を満喫してください。

本コンクールでは、本場ヨーロッパでも通じる評価をしたつもりです。器の大きな声楽家を発掘することができました。企画から審査員との交渉などを引き受けてきましたが、今後もコンクールの充実を図るため、惜しみない努力を続けていきたいと思っています。

William Oberholtzer
ウィリアム・オーバーホルツァー (声楽家・アメリカ)



見事な組織、運営、そして素晴らしいホールでのコンクールでした。

声楽家の皆さんは、厳しい訓練の中でも心豊かであることを忘れないでください。

(敬称略・順不同)

II オペラレクチャー・コンサート

オペラと言うと、料金が低い、言葉が分からないと言った理由から敷居が高いと感じる方が多いようです。そこで、文化の家では、素晴らしいオペラをより身近に親しめるように、ストーリーをわかりやすく解説したオペラレクチャー・コンサートを毎年、低料金で開催しています。オペラレクチャー・コンサートのキャストは、オーディションにより選出された地元の実力ある声楽家で、文化の家のオペラ関連事業をプロデュースする声楽家・大下くみこさんが指導にあたっています。舞台セット、衣装、演技ありの本格的なコンサートとなっています。

長久手町合唱団
「ニュー・センチュリー・コーラス Nagakute」オペラに挑戦！
ニュー・センチュリー・コーラス Nagakute は、文化の家開館に合わせて地域住民で結成された合唱団です。本年度で5周年を迎え、いろいろなジャンルの作品を手がけ毎年、定期演奏会を行っています。本年度は、イタリア語のオペラに取り組み、大下くみこプロデュースのオペラレクチャー・コンサート(10月20日森のホールにて公演)に出演しました。村人の衣装を身に付け、歌声だけでなく役者としての演技も披露しました。



第11回オペラレクチャー・コンサート カヴァレリア・ルスティカーナ

過去のオペラレクチャー・コンサートのあゆみ

第1回	ヘンゼルとグレーテル	平成10年12月
第2回	蝶々夫人	平成11年3月
第3回	カルメン	平成11年6月
第4回	ヘンゼルとグレーテル	平成11年12月
第5回	こうもり	平成12年3月
第6回	蝶々夫人	平成12年6月
第7回	ヘンゼルとグレーテル	平成12年12月
第8回	ドン・ジョヴァンニ	平成13年3月
第9回	ガラ・コンサート	平成13年9月
第10回	セヴィリアの理髪師	平成14年3月
第11回	カヴァレリア・ルスティカーナ	平成14年10月

III 愛知県立芸術大学大学院との提携オペラ

文化の家では地域の芸術大学と提携し、オペラを開催しています。例年、12月には、愛知県立芸術大学の大学院生によるオペラ公演を提携事業として行っています。これは、オーケストラピットを備えオペラ形式に変化する森のホールの舞台機構を生かし、オーケストラ、舞台美術も備った本格的なオペラ公演で、大変な好評を博しています。本年度は、12月8日(日)に行いましたが、公演チケットは早々と完売になったため、今回は、本公演前日の練習も公開しました。

愛知県立芸術大学大学院オペラ公演記録

「コジ・ファン・トゥッテ」	平成11年(公開練習)
「ドン・ジョヴァンニ」	平成12年(試演会)
「フィガロの結婚」	平成13年(本公演)
「魔笛」	平成14年(公開練習・本公演)



愛知県立芸術大学大学院オペラ「魔笛」

IV 今後の取り組み

文化の家では、ポピュラーミュージックや演歌、民族音楽や、クラシック音楽など年間に20本近い音楽系自主事業を行っています。この中で、オペラ系の事業は既述のような3本があり、音楽系事業の柱の一つになっています。

オペラは、音楽、演劇、美術の要素が詰まった総合芸術で、音楽芸術の華ともいえるものですが、ストーリーと演技を伴っており、聴いて、観て、楽しめる魅力的な舞台は、少しのきっかけで、親しみやすく、音楽芸術への入口としても最適なものとなります。文化の家では、今後とも総合芸術であるオペラ事業に力を注いでいきたいと考えています。

贅沢なオペラ公演とは別の、解説付きのオペラレクチャー・コ

ンサート(年2回、コンクール開催年は1回)は、質の高い公演ですが、出演者をオーディションで選んだり、町合唱団の出演を果たすなど、地域との結びつきや住民参加の方向もしっかりと見つめています。好評を博している愛知県立芸術大学の大学院オペラもそうですが、地域との関連を見定めながら、オペラ声楽コンクールのような国際的な視野も確保していきたいと考えています。

また、今年度はオペラレクチャー・コンサートの前日練習に長久手町内の高校生を招待したり県立芸術大学大学院オペラの本公演前日の練習を無料公開しましたが、今後とも多くの皆さんにオペラに親んでもらうための工夫を重ねて行きたいと考えています。



人形劇団ブーク「エルマーのぼうけん」公演

大人も子どもも夢中になって 人形劇団ブーク 「エルマーのぼうけん」公演

9月14日(土)風のホールで人形劇団ブークの「エルマーのぼうけん」の公演を行いました。エルマー少年が、どうぶつ島に捕らわれているリュウを助けにいく友情と冒険の物語。カラフルな大きな人形が出てくると子どもたちは大喜び。「リュウがかわいい」「エルマーはかっこいい」目を輝かせ、身を乗り出して見ている子。「こわーい」とお母さんにしがみつきながらも、劇に夢中な子。みんな、舞台と一体になって見っていました。



人形を作り動かしてみるワークショップに挑戦

涙と笑いの渦

町劇団 座 NAGAKUTE「死神お七」公演

10月3日(木)森のホールで座 NAGAKUTEの時代劇「死神お七」の公演を行いました。今回は、劇団員が戯曲を書き下ろし、よりおもしろくエンターテインメント性を持つよう苦心を重ねた初の時代劇です。お金しか信じなかった金貸しのお七が、生き別れになった息子に出会い、悔い改めるとい人情話。お祭りの場面では、愛知県指定民俗文化財の長久手の棒の手を取り入れて、迫力ある殺陣(たて)や、コミカルな演技で会場を沸かせていました。



座 NAGAKUTE「死神お七」公演

20種の楽器を巧みに演奏 「スペイン慕情 / ザ・ハーブ・コンサート」

10月12日(土)森のホールにて「スペイン慕情 / ザ・ハーブ・コンサート」の公演を行いました。見たことのない古楽器を奏で、目で合図しながら即興で歌と踊りを組み合わせる、おあらかで、情熱的な舞台を作り上げました。また公演前には観客が舞台上がり、生演奏で出演者とバロックダンスのステップを踊るワークショップや10月6日(日)には、文化の家の川上實館長によるバロック美術の講演「スペインの光と影」を開催し、好評を得ていました。



「スペイン慕情 / ザ・ハーブ・コンサート」公演



情熱のスパニッシュダンスを踊ろう! ダンス・ワークショップ

地元中学生が受付も、花束贈呈も 愛知県立芸術大学ウインドオーケストラ第3回定期演奏会

11月10日(日)森のホールにて「愛知県立芸術大学ウインドオーケストラ第3回定期演奏会」を行いました。演奏時間が1時間近くある大曲の迫力ある演奏や2階席及び舞台袖からも演奏する楽しい演出に大きな拍手が沸き起こりました。このウインドオーケストラは、6月には、文化の家で、長久手町の中学校・高校

の吹奏楽部を対象に、県立芸術大学の教官、学生が指導を行う吹奏楽クリニックやコンサートも行い、地域とのつながりも深めています。その時に、参加した中学生たちが今回は、ハワイエでチケットのもぎりなどの受付や指揮者・ソリストへの花束贈呈などを感謝の気持ちを込めて行っていました。



愛知県立芸術大学ウインドオーケストラ第3回定期演奏会



楽器ごとに分かれて県芸大生のクリニックを受ける地元中・高生

温かく心を包む作品展 伊藤雄治展 ころこの包み紙のデザイン

11月14日(木)から24日(日)まで展示室にて、心温まるデッサンを描き活躍している伊藤雄治さんの作品展を行いました。スケッチに出かけた行き帰りに、長久手町や瀬戸市で拾った粘土で作ったさまざまな色、形の立体作品が、作者の心象風景さながらに並べられていました。野原や木を題材にした優しい色づかいの色鉛筆画もあり、あわせて約80点が展示されました。作者の温かい気持ちの伝わる優しい色の作品に、来場者の顔はみんな和らいでいました。



伊藤雄治展

音楽のとどけもの 音楽デリバリー

文化の家では、毎月、第2水曜日に、創造スタッフが訪問し、ミニコンサートを開催する音楽デリバリーを行っています。

創造スタッフは、文化の家が契約する若手芸術家などで、専門性を生かし、自主事業の講座の企画運営に携わっています。これまでに、ピアノ、ヴァイオリン、バレエの創造スタッフが、保育園、児童館などを訪問してきました。10月9日には、長久手町のグループホーム「ハーモニー」で行いました。高齢者のみなさんに親しんでもらえるよう、スタッフは、曲目を工夫し、クラシックから演歌まで幅広く演奏し、曲や楽器のお話を分かりやすくまとめました。喜んでもらえるか心配でしたが、演奏が始まり、真剣な顔でじっと演奏を見つめるお年寄りの足元にそっと目をやると、足を軽快に動かしたりリズムをとる姿がありました。涙を流して喜ぶお年寄りもいて、演奏終了後、一人ひとりが、演奏者にお礼を言っていたのが印象的でした。



音楽デリバリー

寒い冬に、心温まるイベント盛りだくさん

~その一部をご紹介します~

音楽

長久手町文化の家フォーラム

《響き》再発見!

耳をすますと、時間と世界が一つになる

1月18日(土)、19日(日)午後2時開演 **全自由席**
風のホール(両日とも)
一般 1,000円、(フレンズ会員 900円)
(2日間通し券) **発売中**



1月18日(土)
体験コンサート『《響き》再発見!』
音楽でいう《響き》とは何でしょう?
このコンサートは、このような素朴な疑問から《響き》の面白さや不思議さを体験をとおして音楽を楽しくわかりやすく紹介します。

案内役: 今村三明(ティンパニ・愛知県立芸術大学教授)

出演: 福本泰之(ヴァイオリン)、横田真規子(ヴァイオリン)ほか

1月19日(日)映画『チェリビダツケの庭』と音楽評論家によるプレトーク

古今の指揮者の中でも最も《響き》にこだわった巨匠チェリビダツケのドキュメント映画『チェリビダツケの庭』上映と音楽評論家の横溝亮一によるプレトークです。

音楽

名演への招待シリーズ4 ザ・チェコ・トリオ

2月27日(木)午後7時開演 **全指定席**
森のホール
一般 2,500円、(フレンズ会員 2,200円)
学生 1,500円 **発売中**



110年の歴史を誇るチェコの名門ピアノトリオ。ピアノ、ヴァイオリン、チェロで、歴史を重ねた厚い響きを奏でます。

ザ・チェコ・トリオ

曲目: チャイコフスキー「偉大な芸術家の思い出に」、ドヴォルザーク「ドゥムキー」

【関連企画】ザ・チェコ・トリオによるプレトークと「特別公開レッスンと模範演奏」愛知県立芸術大学内オーディション合格者による「室内楽の楽しみ」

演劇

長久手演劇王国vol.5

日本劇作家協会東海支部プロデュース

『劇王』

第1回 Jr ライト級チャンピオン決定戦

1月31日(金)午後7時30分開演 **全自由席**
2月 1日(土)午後3時と午後7時30分開演
2日(日)午後3時開演
風のホール
一般 2,000円、(フレンズ会員 1,800円)
大学生以下 1,800円、
2公演通し券一般 3,000円、(フレンズ会員 2,700円) **発売中**

劇作家の短編戯曲を連続上演し、観客の投票により「劇王」を決定します。

【関連企画】: 入場無料の劇評トークSHOW

演劇

町劇団 座 NAGAKUTE

第8回定期公演

「ある夜の、デンエモン」

作・北村想 / 演出・佃典彦

3月1日(土)午後2時・午後6時開演 **全自由席**
3月2日(日)午後2時開演
風のホール
前売り一般 1,200円 (フレンズ会員 1,000円)
学生 1,000円 当日 1,500円 **発売中**



第6回公演「カレー屋の女」

結成6年目を迎えた座 NAGAKUTE。
北村想書下ろしの作品を佃典彦の演出で演じます。

音楽

事業倶楽部事業ウーヴェ・コミシュケ

スーパー・トランペット・リサイタル

3月19日(水)午後7時開演 **全自由席**
森のホール
一般 3,000円(フレンズ会員 2,500円)
大学生以下 2,000円



ウーヴェ・コミシュケ

1月11日(土)発売
「癒しのトランペット」
「空気に限りなく近い響き」を披露します。

人形芝居

国・選択無形民俗文化財・日本の伝統人形芝居 八王子車人形「西川古柳座」

3月21日(金・祝)午後2時開演 **全自由席**
風のホール
前売り一般 1,500円、(フレンズ会員 1,300円)
当日 2,000円 **発売中**



八王子車人形

車人形は「ろくろ車」という箱型の車に腰掛けて、人形遣いが人形を操る人形芝居です。力強い演技やリズムカルでテンポのよい人形芝居をお楽しみ下さい。

演目: 東海道中膝栗毛、三番叟、スペイン舞踊他

【関連企画】人形と公演写真展示あり

アクティビティ

心を伝える絵手紙サークル

長久手絵手紙を楽しむ会

はがきに、墨と筆を使ってゆっくり輪郭を描き、リズムカルに顔料で色を付け、言葉を添える、誰でも手軽に楽しめる絵手紙サークルとして5年前に発足した『長久手絵手紙を楽しむ会』は、口コミで広がり、今では25歳から80歳までの方が参加しています。「下手でいい。下手がいい。心を伝えることを大切に、自分らしい絵手紙を描きましょう。」と講師の生田範子さんは、会員の描いた作品を一つ一つ温かく紹介し、アドバイスしていました。

参加者の皆さんは「とても夢中になれる。皆さんの作品を見るのは、勉強になりますし、皆違った表現なのが面白いです。」「はがきを出すと、下手でも喜んでもらえるのがうれしいです。」「体が不自由で、外になかなか出掛けられないので、絵手紙を描くことが生きがいです。」と生き生きと話していました。

活動日時 / 第2土曜日 午後
第3金曜日 午後
場所 / 文化の家 講義室2
連絡先 / 生田 範子 0561-62-2698
活動日時、場所等は変更になる場合があります。



絵手紙作りを楽しむ皆さん

はがきの他に、扇子、石、箱、布、ピンなど色々なものに描くこともあり、作品は、寝たきり、一人暮らしの高齢者へ送ったり、病院、福祉施設、郵便局、町民まつりなどで展示したりしています。生田さんは「今後も、絵手紙を楽しむ人の輪を広げ、心を癒し、人生を応援する絵手紙で、温かい、優しい心をつなぎ、絵手紙文化を次の世代の子どもたちに伝えていきたい。」と話していました。

このコーナーでは、文化の家を拠点に活動するグループ・サークルなどを紹介します。



編集後記



去年の正月は、ウイーンの歌劇場で活躍を始めた小沢征爾氏の指揮ぶりが、当地ウイーンでも、また日本でも大きな話題を呼んだ。17世紀以来、西欧ではオペラは文化・芸術の花形として栄えてきたが、日本でも最近では随分と盛んになった。当情報誌の正月号は、オペラをめぐる長久手からの話題もどうぞ、と願って特集にした。

文化の家は、条件に恵まれていることもあって定期的に年間3~4本のオペラ系の催しを行ってきた。そして、「県立芸大大学院オペラ」の盛況ぶりからも分かるように、オペラのファンは着実に増えている。「オペラ音楽コンクール」は長久手から全国、世界に向けての発信であるが、第2回の今回はその公開審査を熱心に「観戦する」観客も増え、地元の皆さんにも随分と関心を持っていただけるようになった。その観客の皆さんには、ご自身も審査員になって採点してみませんか、出場者名などを一覧にした「採点表」をお渡した。審査結果が発表されるたびに、この掲示を前に、「結構当たっていたよ」との声も多く聞えるようになった。

もっぱら受身で楽しむのも鑑賞だけれど、演奏や公演を自分なりの耳や目で批評し、評価していく、時にはそんな参加型の鑑賞者になってオペラや演奏会を大いに楽しんでいただきたいと願っています。

文化の家館長 川上 實

長久手町福祉の家



文化の家から東へ約2kmのところ、12月16日福祉の家がオープンしました。

福祉の家は温泉エリアと福祉エリアがあり、温泉エリアの「ござらっせ」は泡風呂、露天風呂など、さまざまな風呂を楽しめる天然温泉となっています。広々とした飲食ゾーンや休憩ゾーンもあり、のんびりくつろぐことができます。

福祉エリアには、高齢者、障害者を対象としたデイサービスセンターと福祉センター機能を備えており、パソコン教室、ダンス教室など幅広い講座を開催し、町民の生きがいづくりの場となっています。ボランティアプラザや交流ストリートもあり、さまざまな福祉活動が広がっています。



長久手町文化の家 情報誌

発行 / 長久手町
編集 / 長久手町文化の家

お問い合わせ

長久手町文化の家

〒480-1131

愛知県愛知郡長久手町大字長湫字野田農94番地1

tel.0561-61-3411 fax.0561-61-2510 チケット専用 / tel.0561-61-2888

<http://www.bunka.nagakute.aichi.jp>

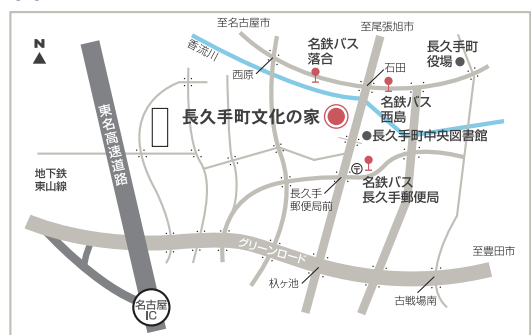
- 事業、舞台技術に関すること・・・事業係
- 施設利用、フレンズ、情報誌に関すること・・・管理係

休館日 = 月曜日(祝祭日の場合は翌日)及び年末年始

開館時間 = 午前9時～午後10時

交通アクセス

- 地下鉄東山線藤ヶ丘駅から車で5分
- 地下鉄東山線藤ヶ丘駅下車、名鉄バス2番乗り場、長久手郵便局前下車、徒歩8分
- 地下鉄東山線藤ヶ丘駅下車、N-バス [Fルート] 文化の家下車すぐ
- 名鉄バスセンターから名鉄バス、長久手車庫行き、西島下車徒歩10分
- 東名高速道路名古屋インターから車で10分



所在地：長久手町大字前熊字下田171番地
お問合せ：長久手町福祉の家 (0561)-64-6500
 ござらっせ (0561)-64-3511